

年 組 名前:

9月にリリース予定の「恋紅」のワイン



サントネージュのオリジナル品種「恋紅」



量を増やせるようにしたい」と話している。

独自ブドウでワイン醸造

来月初のリリース

サントネージュ「恋紅」23年産使用

同社によると、恋紅は赤ワイン用品種のメルローと、仏南西にある契約農家の畑約1.5平方部を原産とするマルベックを掛け合わせた個体の中から選抜を重ねた。オリジナルのワイン造りを目指して1986年に初めて交雑を行い、メルローと比べて色合いが濃く、甘み、酸味も強いと確認されたという。2007年に品種登録した。一方で、病気になるやすい傾向があり栽培が広がり、長年同社の敷地内で原木を守る程度にとどまっていた。21年に同社が調味料・酒類製造販売のサンフーズ(甲州市)のグループ会社になったことをきっかけに、オリジナル品種が見直され、22年春から本格的に栽培をスタートした。

同社は今年、日本ワインコンクールで、「かみのやま奈良崎畑メルロー2022」と「山梨牧丘倉科畑カベルネ・ソーヴィニヨン2023」が金賞を受賞した。恋紅も受賞商品に並ぶ主力商品に育てたいと考えて、白川社長は「猛暑の影響で赤ワイン造りが難しくなっているが、恋紅はしっかりと色が付き、温暖化に対応する救世主になる可能性もある。毎年生産量を増やせるようにしたい」と話している。

現在は、山梨市牧丘町倉科にある契約農家の畑約1.5平方部を原産とするマルベックを掛け合わせた個体の中から選抜を重ね、病気を防いでいる。リリースするワインは、タンクでの発酵を経て約15カ月間たてて熟成させ、約500本を瓶詰めした。深みのある鮮やかな赤色で「飲みやすいワイン」(白川社長)に仕上がったという。8月31日までCFE(QRコード)を行い、返礼品としてワインなどを用意。CFEの資金は雨よけ設備の導入や苗の育成などに充てる。一般発売は今後検討する。

(2025年8月26日付 山梨日日新聞7面)

問1 山梨市のワインメーカーが、オリジナルのブドウ品種からのワイン造りに取り組んでいます。そのブドウ品種を教えてください。

.....

問2 次の文章の①から⑤に当てはまる言葉や数字を、教えてください。

『オリジナルブドウは、①のメルローと、②を原産とする③を掛け合わせた個体の中から選抜を重ねた。オリジナルワイン造りを目指して④年に初めて交雑を行い、⑤年に品種登録した』

①..... ②..... ③..... ④..... ⑤.....

問3 ワインはクラウドファンディングの返礼品とします。募った資金は、生産量の拡大のためにどのようなことに利用しますか。

.....